

## 6915 千代田インテグレ

小池 光明 (コイケ ミツアキ)

千代田インテグレ株式会社 代表取締役社長

### スマートフォン部品の売上増加と円安効果により、増益を達成

#### ◆2013年8月期第2四半期決算の概要

当四半期における、当社を取り巻く市場は非常に厳しいものであった。スマートフォン等小型タブレットの売上は好調を維持し、自動車関連市場も持ち直しつつあるものの、テレビの生産台数は激減し、OA 機器関連も低迷した。

このような環境のもと、業績は、売上高 182 億 10 百万円(前年同期比 1.3%減)、営業利益 9 億 46 百万円(同 10.8%増)、経常利益 13 億 73 百万円(同 49.6%増)、四半期純利益 11 億 34 百万円(同 546.6%増)となった。決算レートは 1US ドル 86.58 円(前年同期 77.74 円)である。なお、USDルの為替レート1円の上下で売上高に対し 1.5 億円、営業利益に対しては 25 百万円の影響があった。

売上高についてはテレビ部品の販売が全く振るわず、OA 機器向けも低調であった。また、中国では、反日デモの影響により自動車部品の販売も伸びを欠いた。それをスマートフォン部品が下支えをし、円安効果も大きかったが、残念ながら減収となった。営業利益については、中国の人件費が高騰したが、国内事業の合理化と海外子会社の原価低減を推進し、グループ全体で収益力の改善に努めた結果、粗利益率が1ポイント向上、増益となった。経常利益は、外貨建て資産の為替差益により大きく増加した。

売上高は前年同期に比べ 2 億 48 百万円減少した。主なプラス要因には、スマートフォン部品 8 億 80 百万円、北米向け AV 機器・自動車部品 1 億 35 百万円、日本向けフェルト商品 1 億 87 百万円などがあつたが、マイナス要因として、OA 機器部品 3 億 38 百万円、AV 機器部品 9 億 11 百万円、中国向け自動車部品 2 億 71 百万円があつた。なお、売上高に対する為替の影響は 13 億 85 百万円であつた。

営業利益は前年同期に比べ 91 百万円増加した。プラス要因には、円安による影響 2 億 22 百万円、海外子会社の原価低減 1 億 49 百万円、国内合理化効果 3 億 56 百万円があり、マイナス要因には、海外子会社費用への現地通貨高影響 4 億 50 百万円、国内売上減による影響 1 億 12 百万円などがあつた。

単体・海外子会社の月次売上高では、現在、生産の約 8 割を海外で行っており、海外の状況が業績に大きく影響する。足元では、中国において日系メーカーからのスマートフォン向けの受注が好調であり、ベトナムでは韓国系メーカーからの受注が増加し始めた。テレビ向けは不調だが、北米では売上が増加している。OA 機器については、伸びは期待できないものの、メーカーの在庫調整が少しずつ進んでいると見ている。

単体の業績は、売上高 66 億 63 百万円(前年同期比 15.6%減)、営業損失 1 億 20 百万円、経常利益 7 億 73 百万円(同 57.4%増)となった。国内電機業界は回復のめどが立っていない。売上確保のため、医療機器や自動車関係への営業活動に注力しているが、結果が出るまでにはもう少し時間がかかる。営業利益については、3 億円を超える合理化効果があつたにもかかわらず、マイナスとなった。ただし、海外出向者の人件費等、本来は連結ベースで見るべき経費が約 3 億 50 百万円、単体に計上されている。その分を考慮すると、営業利益は実質プラスとなる。

## ◆所在地別セグメントの業績

日本は、顧客の海外への生産移管により、外部顧客売上高 58 億 74 百万円(前年同期比 8.0%減)、営業損失 1 億 13 百万円となった。内部売上高も、現地調達が進んでいるため減少している。

東南アジアは、外部顧客売上高 43 億 65 百万円(前年同期比 3.2%増)、営業利益 94 百万円(同 44.7%増)となった。タイは、一昨年の洪水後、なかなか業績が回復しない。世界的に電機・OA 業界の動きがいま一つであることと、洪水で生産を引きあげた分が戻らないことが影響している。インドネシアは、自動車メーカーを始めとする日系企業の進出ラッシュとなっており、投資が活発に行われているが、それに伴い、賃金上昇やストライキの発生など、先行き懸念される材料も幾つか出てきている。当社の進出は 1997 年と古く事業拡大も検討しているが、もう少し情勢を見守りたい。ベトナムは、日系以外のスマートフォンメーカーの売上が増加した。OA 機器メーカーが数社、ベトナム進出を加速させていることも好材料である。中国リスクのヘッジという点からも、ベトナムでの活動を強化していきたい。

中国は、外部顧客売上高 69 億 60 百万円(前年同期比 0.2%減)、営業利益 4 億 14 百万円(同 25.2%増)となった。反日デモの影響でかなりのダメージを受けたが、スマートフォン向けが、特に北京、天津を中心とする華北エリアで好調に推移した。日系の自動車部品は、ようやく動き出したというところである。

北米は、外部顧客売上高 7 億 96 百万円(前年同期比 19.8%増)、営業利益 1 億 74 百万円(同 127.0%増)、営業利益率は 21.9%と、規模は小さいものの伸びが大きい。自動車向け、AV 機器向けの増加に、円安が重なった。

業種別の売上高構成比を見ると、OA 機器は 41.7%(前年同期 42.9%)となった。当四半期はヨーロッパ経済や中国の反日デモの影響もあり、大きな売上増は見込めないものの、堅調に推移すると見ている。AV 機器はテレビ生産の落ち込みにより 19.2%(同 23.9%)、通信機器はスマートフォン向け売上増により 17.4%(同 12.4%)となった。通期では、AV 機器と通信機器の比率が逆転するだろう。自動車は 11.6%(同 12.0%)であった。

当四半期の設備投資は、日本が 13 百万円(前年同期 1 億 11 百万円)、海外が 4 億 85 百万円(同 1 億 87 百万円)、減価償却費は 5 億 84 百万円となった。設備投資は、今後も海外におけるスマートフォン関連が中心になる。設備の調達に関しては、日本メーカーにこだわらず、成長めざましい中国・台湾メーカーを中心に検討している。

## ◆2013 年 8 月期通期業績予想

通期の業績については、前回発表の予想を上方修正し、売上高 375 億円(前回発表予想 360 億円)、営業利益 18 億円(同 14 億円)、経常利益 22 億円(同 13 億円)、当期純利益 19 億円(同 8 億円)としている。前提となる為替レートは 1USドル 90 円である。

OA 機器向け、AV 機器向けは依然として厳しいが、スマートフォン向け売上は高水準を維持できる見通しである。ただし、スマートフォンは顧客からの価格圧力が強いいため、これだけに特化するという戦略はとりにくい。年間を通じて変動のない OA 機器や自動車向けのビジネスは従前どおり維持しながら、利益の向上に努める。経常利益に関しては、為替レートの見通しに不透明感が残る。当期純利益は、遊休資産の売却益が発生すること、また前期はタイの洪水による損失があったことから、大きく増加する見通しである。

今後の取り組みだが、スマートフォン向けは、日本でも人気の機種の子部品生産がかなり増加している。ただ、この機種への依存度が高くなりすぎると、受注が大きく変動する危険性も高くなる。スマートフォン向けでは、そのあたりの見極めが重要になる。韓国系メーカーとの取引については、今後徐々に拡大していく予定である。

中国での自動車関連の生産は回復の兆しがあらわれている。しかし、これから顧客が中国に大きく投資をしていくかといえば、それは見込めない。一方で、北米での受注は順調である。成熟した国でのビジネスは底堅く、非常に期待をしているところである。

OA 機器は、景気は低迷しているが、各メーカーの在庫調整が進みつつあり、大きく落ち込むようなことはないだろう。この分野でも、今後、メーカーが中国での事業を拡大する状況は考えにくい。むしろ、人員を削減したり、外

注政策をとったりと、いつでも拠点を東南アジアへ移せるような体制を整えつつあると感じている。  
当社としては、以上のような状況を見極めた上で適切な判断をし、目標を達成したいと考えている。

### ◆ 質 疑 応 答 ◆

**営業利益では、円安影響によるプラスよりもマイナスのほうが大きい印象だが。**

営業利益の増減要因で、円安影響による 2 億 22 百万円のプラスより、マイナス要因として挙げた「海外子会社費用への現地通貨高影響」が 4 億 45 百万円と大きかったため、そのような印象を持たれたのだと思う。この 4 億 45 百万円は為替の影響による費用の増加分であって、実際には円安に動くと売上が上がるので、円安による影響はプラスの方向に大きく出ている。

**通期予想の修正で、当期純利益が大きく増加した要因について、もう少し詳しく教えてほしい。**

遊休資産となっていた仙台の土地が 3 月に売却できたので、特別利益に 1 億 90 百万円入る。また、去年は特別損失に計上していたタイの洪水被害や、国内合理化によるさまざまな費用などを今回はほとんど見込んでいない。実効税率を用いた計算等々を行った結果、この数値になった。

(平成 25 年 4 月 16 日・東京)

\* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見ることができます。

<http://www.chiyoda-i.co.jp/ir/ir-library/session>